

三井のリフォーム 住生活研究所長 西田 恭子

## 遅めの夏休み

今年は仕事や家族のスケジュールがうま〜いかず、夏休みが取れないまま過ぎてしまっていた。そんな中、知人から自分の予定が変わって軽井沢の別荘が空いたので、使わないか、とのお誘いが飛び込んできた。これは渡りに船と即座に行かせていただくことにした。

以前リフォームの仕事で、旧軽井沢の夏場使用の別荘を、一年中使えるようにしたいというお客様からの依頼を受けたことがある。その時は、トップシーズンに向けての竣工を目指して、寒い時期に時間的な余裕のない日帰りでの現場通いで町の様子を知る機会はなかった。

今回は、ちょうどNHKのテレビ番組「プラタモリ」で軽井沢が取り上げられ、町への関心を持って行くことになった。セミナーなどで各地を回る機会は多く、まずホームページ等で人口やその推移などを調べて、町の概要を多少頭に入れてから訪れることにしている。軽井沢の人口は二万人程だが、この時代に、なんと人口が増えているではないか。また世帯数約九、〇〇〇戸

に対して、別荘は一万五、〇〇〇戸もあり、住宅業界で仕事をしているものとしては改めて興味を抱いた。そう言えば誰かが、「この町は石を投げたら不動産業者に当たる」とか「建築の確認申請は年約五〇〇件もある」と言っていたが、確かにと納得した。

今や地方の人口減少が叫ばれている中で、何故ここは増加したのかを知りたくなった私は、滞在中に見聞きたことから推察してみた。まず、自然環境の素晴らしさは言わずもがなだが、レストランでの食事が美味しく、意外にリーズナブルだ。地元スーパーマーケットが頑張っていて、ご当地の物ばかりではなく日本海からの新鮮な魚が食べられるなど、今や観光客にも人気だ。また野菜や果物は、地元農協が農家とタイアップして直売所に並べ、開店前から長蛇の列である。

次の理由は、最近、住宅性能向上が進んだことではないかと思う。断熱性能では窓ガラスは二重、場合によっては三重で、枠は樹脂なのだから、冬場は新ストープでも焚けばTシャツで

も平気なのだぞうだ。冬場はマイナス一〇度になるぞうだが、家の中は快適に保てぞうだ。また地元不動産屋さんへ聞くと、最近の傾向として、使わなくなった中古の別荘を再利用して住む人が多く、新築するよりも人気があるとか。ここには既に、ストック活用を実践しているようだ。また、ホームセンターが充実していることを幸いに、毎週末、東京から来て、DIYリフォームを頑張る人もいると聞かせて貰った。

国も人口減少からくる空家対策や地方の経済対策などで、様々な施策を出してきている。空家にしておくことを考えたら、都会からの移住先やウィークエンドハウスとして活用することは結構なことだと思う。事実、別荘を使わないかと言ってくれた知人も、東京との二地域居住を実践し、別荘の周囲には、新幹線を通動している方や在宅勤務の方もいると言っていた。今年の遅い夏休みは、栗がはじける音を楽しみながら、旅行とは違う滞在型リゾートを楽しませてもらう。



西田恭子氏プロフィール＝一級建築士。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」所長。リフォーム設計の経験を活かし、新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。日本女子大学非常勤講師。インテリア学会会員。日本建築家協会正会員。